日本建築学会大会学術講演梗概集
（関　　東）２００１年９月

# 戦前期の「都市美協会」の系譜について
## 都市美運動の全国的展開に関する基礎的な整理

正会員　中島　直人

都市美　　都市美協会　　戦前期
橡内吉胤　　石川栄耀

### １・はじめに

美しい景観を希求する市民の声の高まりを背景として、最後の『建設白書』では「美しい都市景観の育成」が主題として取り上げられた。また日本近代都市計画史研究の中でも都市景観や都市デザインの計画思想の解明が近年鋭意行われてきている[1]。しかし、そのような現在の趨勢にも関わらず、都市景観に関する現在的思考の端緒とされる戦前期の都市美運動の実相、特に担い手（人、組織）については明らかでなく、都市景観に関する思考と活動の蓄積の全体像は議論・把握されていない。

本研究では、戦前期の都市美運動の担い手として名を知られている都市美協会の他にも、全国に「都市美協会」という名を持った組織が存在していたことを明らかにし、橡内吉胤、石川栄耀という二人の都市美運動家に着目しながら、それらの系譜を整理することを目的とする。

### ２・「都市美協会」の誕生

1926年10月に設立され、東京を中心に活動を展開した都市美協会が日本で最初の「都市美協会」である。

都市美協会の前身は、1925年10月に設立され、東京市政調査会内に事務所を置いていた都市美研究会であった。都市美研究会には建築家・石原憲治、都市研究家・橡内吉胤らを中心として多様な顔触れが集った。創立発起人の一人である橡内が草した発会の趣意書は「今や帝都復興をひかえて都市の事業界彌々他事なる秋、タウン・プランナーやシビック・アーティストは勿論、建築家も美術家も、その他いやしくも都市改良家、都市研究家として都市問題に興味と熱意を有せらるる士は漫然書斎や画室に閉じこもっているべきではあるまいと思います」[2]というものであった。石原、橡内、そして建築家・中村鎮の３人が幹事となり、例会での議論や、「都市美の夕」講演会などの活動を行った。そして、1925年10月の１周年総会で、会長に阪谷芳郎男爵を迎え、調査機関から実践機関へという意図で都市美協会へと改組した。

都市美協会の活動の変遷については別稿に譲るが、1933年には事務所を東京市土木局内に移し、東京市との結び付きを強めた。1937年には第一回全国都市美協議会を主催するなど、都市美運動の全国的展開を主導していった。しかし、1943年には大東亜戦争の完遂と大東亜共栄圏の建設に協力する目的で設立された国土愛護連盟の一構成団体となるなど、時局の悪化の中で、戦前期の都市美協会の活動は途絶えていった。

### ３・橡内吉胤の「都市美協会」の系譜

元朝日新聞の記者であり、都市美や都市風景、歴史的環境保全に関する言論活動を中心に行った都市研究家の橡内吉胤[3]は、1924 年春に帝都植樹協会を設立し、東京で最初の樹植祭や植樹といった緑化運動を開始していた。橡内は都市美研究会創立に際し趣意書を起草し、都市美協会では常務理事を務めた都市美運動の主唱者であった。

橡内は東京で都市美協会の常務理事として活動する一方で、故郷盛岡において、地方紙『岩手日報』や講演会を通じた都市計画の啓蒙活動を行っていた。1928年には地元の有志とともに、都市計画に関する世論形成を目的とした盛岡都市生活研究会を設立したが、活動は１年ほどで途絶えた。しかし、1934年４月には、橡内の著作『日本都市風景』の出版記念の集りの会場で盛岡都市美協会が発起・設立された。会長には盛岡市長が就任し、橡内は顧問に就任した。盛岡都市美協会は断続的に会合・イベントを開催していたが、1937年頃には活動が潰えた。

又、橡内は、東京市役所内に事務所を置くことによる官僚的雰囲気・活動の制限を理由に、都市美協会から1935年11月に脱会した。そして新たに日本都市風景協会を主唱設立し、都市美協会から離れて活動を続けた。

### ４・石川栄耀の「都市美協会」の系譜

戦前期において、都市美協会とは異なった視座から「都市美協会」を設立し、都市美運動を展開させていたのは、日本都市計画のパイオニアであり、後に東京の戦災復興計画を立案した都市計画家・石川栄耀であった。

石川は1927年に「名古屋をも少し気のきいたものにするの会」を設立し、都市計画愛知地方委員会技師としての通常業務以外に、商工会議所の関係者や照明研究者たちと会合を持つようになり、続いて盛り場の建設を目的とする名古屋都市美研究会を設立した。名古屋都市美研究会は広小路や大須などで地元住民組織の設立・運営を支援し、都市美的な盛り場の建設を行った。名古屋都市美研究会は、1933年に石川が東京都市計画地方委員会に

A basic study on some societies of civic art before the war

NAKAJIMA Naoto

【表－１】戦前期の「都市美協会」及び関係する諸団体

| 団体名 | 設立年月 | 目的・趣旨など | 会員構成など | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| [redacted] | | | | |
| 都市美協会 | 1926年10月 | 「本会は都市美に関する研究をなし之を尊重すべき観念の普及を図ると共に都市美の構成に就て質疑せむとするものなり」（「都市美協会会則」『都市美』2号） | 【会長】阪谷芳郎【副会長】本多静六、塚本靖、牧彦七【理事】佐藤功一、笠原敏郎他【常務理事】渡辺鉄蔵、中村鎮、石原憲治、橡内吉胤 | 1933年以降、事務所を東京市土木局内に置き、東京市との結び付きを強めた。 |
| 盛岡都市美協会 | 1934年4月 | 「専門にその方面の調査研究をなし、都市美観念の普及発達を図る事」（『岩手日報』1935年5月29日） | 【会長】盛岡市長【顧問】橡内吉胤【構成員】県、市の技師、学識経験者、市議、商工会議所所員など | 橡内の著書出版記念の集りの場で、発起。 |
| 名古屋都市美協会 | 1935年4月 | 「都市の口観秩序維持の調査研究を目的に、従来の都市美研究会を拡大して内容を整え、名古屋市をあらゆる角度から観察してより堅実なる発展にそなう」（『名古屋新聞』1935年4月5日） | 【会員】高松定一（名古屋商工会議所商業部長）他、照明・広告関係技術者、研究者 | 石川が創立総会で講演。 |
| 広島都市美協会 | 1935年6月 | 「広島都市美の発揚に付き調査研究指導を為し文化の向上に資する」（「広島都市美協会会則」『広島商工会議所月報』15巻8号） | 【会長】商工会議所会頭【顧問】石川栄耀、県部長、市長、電気瓦斯会社関係者など【幹事】引野通夫（県都市計画課技師）など | 石川の指導により設立。 |
| 商業都市美協会 | 1936年1月 | 「本会は屋外広告、看板、店頭装飾、街頭装飾其他商業美術全般に亘る都市美的効果の研究及び指導を以て目的とす」（「商業都市美協会会則」『商業都市美』1巻3号） | 【主唱者】石川栄耀【委員】商工省官僚、東京市・府の商工課長、商工会議所関係者や商業・広告関係の技術者、研究者 | 石川が実兄福岸栄隆らとともに設立。 |
| 台湾都市美協会 | 1939年頃 | 「総合的美装は最後の美的保育に待たねばならぬものであるが、これには全都市市民が都市美に対する認識を深め協力するに非ざれば到底望み得べからざる」「本島都市の健全なる発展に寄与せんとす。」（中村　（1939）「台湾の都市美方形と都市美運動」『都市美』26号） | 不明 | 実際の設立、活動は不明。 |
| [redacted] | | | | |
| 帝都復興協会 | 1923年春 | 「震災後の東京復興計画の重大なることを痛感し」（橡内（1929）「都市とグリーンの問題」『都市問題』8巻5号） | 【会員】橡内吉胤など | 被復会は都市美研究会で継続。 |
| 都市美研究会 | 1925年10月 | 「都市美に関する研究、批判、計画、啓蒙宣伝を以て目的とす」（「都市美研究会（暫定）規則」） | 【創立発起人】渡辺鎮蔵、金子鷹治、田口義次郎、鈴木文史郎、中村鎮、島田藤、石原憲治、橡内吉胤、池田信一、工藤英一【幹事】石原、中村、橡内 | 1周年総会で、都市美協会に改組。 |
| 名古屋をも少し気のきいたものにするの会 | 1927年頃 | 「名古屋を自分の家の様に愛する人達が之をも少し気のきいたものにする様に、気のついたことを考えたり、はなしあったりする」「その結果を各方面に助言したり、実現の出来る方法も採りたい」（「会の約束」『都市創作』3巻8号） | 【世話役】石川栄耀【同人】高松定一、田辺征中（陳列図案家）、菅井武亮（東邦電力技師）など名古屋の商業（照明・広告）関係者、 | 石川を中心とした集まり。 |
| 盛岡都市生活研究会 | 1928年1月 | 「都市計画は単なる都市造営敵の変形改造であってはならぬ。口新的な市民の意図が都市形態の上に現れねばならぬとの主意」「政治、経済、芸術、保健等都市生活に関する一切の問題を主題として」（『岩手日報』1928年1月17日、18日） | 【主唱者】橡内吉胤【会員】盛岡市民の有志、同好者 | 橡内の都市改良会の提案がきっかけ。 |
| 名古屋都市美研究会 | 1928年頃 | 「市内各盛り場の意匠」（石川栄耀（1928）「郷土都市の話にまる迄」『都市創作』4巻8号） | 【会員】石川他、商工会議所を中心とした看板及びショウウィンドウ研究者 | 1935年に名古屋都市美協会に改組。 |
| 日本都市風景協会 | 1935年11月 | 「帝都の都市美を、無情な破壊から護り、情味豊かに育てて行こうという自由人の集まり、その運動を都市を愛する民衆の声として守りたてて行こうという会合」（『報知新聞』1936年2月19日） | 【設立発起人】橡内吉胤、長谷川如是閑、川路柳虹、島田藤心、福原信三、岸田日出刀、田村剛、安藤正純、岸衛、石川栄耀【会長】曽我祐邦 | 都市美協会から脱会した橡内が設立。 |

転任した後も活動を続け、1935年4月には活動の充実を目論み発展的に解散し、名古屋都市美協会が設立された。その創立総会では石川が講演を行った。

また、1935年には広島商工会議所主催の盛り場に関する石川の講演会、東京の盛り場視察がきっかけとなり、6月に石川の指導により広島都市美協会が設立された、

石川はこれらの二つの「都市美協会」の指導も含め、東京、そして全国の盛り場育成を目的に1936年1月には商業都市美協会を設立した。石川は自身の運動を、都市美協会を中心とした「純粋都市美運動」に対し商業と都市美を結び付けた「生産的な都市美運動」と称していた。

石川は、橡内の日本都市風景協会の設立発起人となり、第一回全国都市美協議会では講演を行うなど、しだいに「純粋都市美運動」にも近付き、1939年には都市美協会の理事、翌年には常務理事となり、戦前期の都市美協会の最終期に、運営・言論面で中心的役割りを担った。

## 5・まとめ

以上、戦前期における東京の都市美協会以外の幾つかの「都市美協会」の存在とその系譜が明らかになった。

これらの系譜外では、1939年には台湾都市美協会の設立が伝えられている。1937年以降3回開催された全国都市美協議会では、1933年設立の京都美化運動連合会や、1937年設立の大阪都市協会都市美委員会の活動が報告されている。都市美運動は全国的な展開を見せていた。

従来東京の都市美協会のみで語られてきた戦前期の都市美運動について、今後は本研究で整理された「都市美協会」や各団体の思考、活動遍歴を明らかにした上で、改めてその史的意義、現在的意味を問わねばならない[4]。

[1] 為国孝敏（2000）「都市計画の現状と課題　都市計画史」『都市計画』227号、pp.70-75
[2] 趣意書については、（1926）「都市美研究会の設立」『建築雑誌』477号、pp.105-108
[3] 橡内吉胤（1888－1945年）については、拙稿「都市研究家・橡内吉胤の履歴と著作について」『2000年度日本建築学会関東支部研究報告集II』、pp.293-296を参照のこと。橡内と石川はそれぞれ1907年、1911年に盛岡中学を卒業している、同窓の関係である。
[4] そのような試みとして、拙稿（2001）『20世紀前半における都市美を巡る一連の運動都市計画に関する思考と都市での実形について』（東京大学修士論文）がある。

東京大学大学院博士課程・工修　　Graduate School, the Univ. of Tokyo・M.Eng.